三菱重工



COMPANY GUIDE

MOVE THE WORLD FORWARD

MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

三菱重工　新卒採用　検索

詳しくはこちら ▶

公式 YouTube はこちら ▶

公式Xはこちら ▶

公式Instagramはこちら ▶

©MHI_GROUPJP

三菱重工業株式会社

本社

■ **丸の内**

〒100-8332　東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

■ **田町**

〒108-8015　東京都港区芝五丁目33番11号

www.mhi.com/jp

2026年7月発行

地球をステージに、夢をかなえる仕事

地球上の皆が快適に、安全で、笑顔で暮らせる社会。その夢を現実に変えるために、
私たちは常に最先端のものづくりを通して、社会の進歩に貢献してきました。
この会社で働くということ── それは、あなたの夢が現実を動かす力を信じるということ。



ものづくりへの情熱と責任、そして誇り。
私たちの「役割」と「使命」が、
豊かな未来を創造すると信じています。

三菱重工グループは、ものづくりとエンジニアリングのグローバルリーダーとして、民間航空、輸送、発電所、ガスタービン、機械、インフラから、防衛・宇宙システムにいたるまで、陸・海・空、そして宇宙という幅広いフィールドをステージに活躍する企業です。長年にわたる豊富な実績とノウハウを駆使して世界中のヒトとモノを結びつけ、よりよい未来のために貢献したいと日々情熱を注いでいます。刻々と進化する時代の中で、自分の日常の仕事がダイナミックに世界とつながっている。そんなスケールの大きな達成感と誇りは経験した人だけが味わえるもの。さあ、あなたも三菱重工グループの一員として、ともに未来に歩んでいきませんか。

陸、海、空、そして宇宙まで。
広範な事業領域から世界中の人々の暮らしに貢献しています。

主な事業および社内組織と主要子会社の関係について

エナジー

主な事業
- 火力発電システム※
- 原子力発電システム
- 航空エンジン
- コンプレッサ
- 舶用機械

※ ガスタービン・コンバインドサイクル(GTCC)、スチームパワー

社内組織と主要子会社

エナジードメイン
原子力セグメント

- ■ 三菱重工航空エンジン株式会社
- ■ 三菱重工コンプレッサ株式会社
- ■ 三菱重工マリンマシナリ株式会社

プラント・インフラ

主な事業
- 製鉄機械
- 商船
- 環境整備
- CO_2回収
- エンジニアリング
- 機械システム

社内組織と主要子会社

プラント・インフラドメイン
機械システムセグメント

- ■ Primetals Technologies Limited
- ■ 三菱造船株式会社
- ■ 三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社
- ■ 三菱重工機械システム株式会社

インダストリアル・ソリューション

主な事業
- エンジン
- ターボチャージャ
- 冷熱製品
- カーエアコン
- データセンター関連

社内組織と主要子会社

インダストリアル・ソリューションドメイン

- ■ 三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社
- ■ 三菱重工サーマルシステムズ株式会社

航空・防衛・宇宙

主な事業
- 民間航空機
- 防衛航空機
- 飛しょう体
- 艦艇
- 特殊機械(魚雷)
- 特殊車両
- 宇宙機器

社内組織と主要子会社

民間機セグメント
防衛・宇宙セグメント

- ■ MHI RJ Aviation Inc.

本冊子記載の情報は、2026年5月1日現在のものです(P19-20は除く)。

一人ひとりの挑戦と成長が、世界を前に進める。
三菱重工グループのポテンシャルを最大限に発揮させる
若い力への期待。



EISAKU ITO
伊藤 栄作　取締役社長 CEO
[1987年入社]工学部卒

今も昔も変わらず若手社員の挑戦を大切にする

私自身の若手社員時代を振り返って、特に印象に残っている経験があります。それは、入社1年目で任されたジェットエンジン向けタービンの開発プロジェクトです。私は学生時代、工学部でガスタービンの研究をしており、その分野の技術者を志して就職活動を行い、日本で唯一ガスタービンを自主開発していた三菱重工に入社しました。そこで任されたのが、構造が非常に複雑なジェットエンジン向けタービンの開発プロジェクトでした。独創性が求められるプロジェクトのため、あえて若手に挑戦してもらおうと上司は考えたようです。企画から開発、設計、試作、評価まで、ものづくりのすべてのプロセスをほぼ一人で担当したことで、その後の礎となる貴重な経験を積むことができました。その後も技術者として日本や世界でさまざまなプロジェクトに携わりましたが、 若手社員のうちから大きな仕事に挑戦できるという風土は、三菱重工グループの大きな特徴です。もちろん大きな仕事を任されたときはプレッシャーもありますが、そうした経験を積むたびに、また一つ成長する自分を実感できました。

挑戦し続ける姿勢で社会に貢献できる人に
そして唯一無二の企業であり続ける

三菱重工グループの最大の魅力は、社会との関わりの深さにあります。ものづくりを通じて社会に貢献したいと考える方は多いでしょう。三菱重工グループには、その想いを実現できる無数のチャンスがあります。なぜなら、三菱重工グループの事業フィールドは、海の底から宇宙の果てまで、そして日本国内に留まらずグローバルに広がっているからです。また、1884年の創業以来、前例のない課題に挑戦し続けてきたからこそ、数多くのオンリーワンの技術を有する唯一無二の企業であり続けています。このような唯一無二の企業で働く社員には、自ら考え抜き懸命に挑戦し続ける姿勢が求められます。社会課題が複雑化するなかで、日本や世界に貢献し続ける企業であるために、乗り越えなければならない壁はますます高くなるでしょう。しかし、その分だけ大きく成長でき、自らの成長とその先にある社会への貢献というやりがいを重ね合わせることができるのです。

多彩な技術と多様な人材こそが三菱重工グループの強み

三菱重工グループが保有する技術は700以上あります。ハードウェアからソフトウェアに至るまでの技術の多彩さこそが唯一無二の企業たる所以であり、且つこれらの技術を組み合わせることで、かつてないものづくりを実現しています。そして、かつてないものづくりをビジネスとして育て社会に実装していくためには、社内外を問わずさまざまなパートナーと協力し、全体最適となるソリューションを提供していくことが求められます。多様で豊かな知見と視座をもつ多くの人材がチームを組み、互いに高め合いながら、未来志向で挑戦していく姿勢が欠かせません。三菱重工グループの事業を支える根幹は人であり、多様な人材の個の力の結集が組織力となります。個の力を高めるために、三菱重工グループではさまざまな挑戦と成長の機会を社員に提供しています。一方で、挑戦や成長の機会は与えられるのみではなく、自ら切り拓くものでもあります。社員には、自らの人生を通して取り組む社会課題を見出し、組織として目指すものと重ね合わせ、挑戦と成長を重ねていってほしいです。三菱重工グループは社員の挑戦と成長を後押しする環境づくりに取り組み続けます。

三菱重工グループにしか実現できないものづくりで
社会課題の解決に挑戦していく

1884年の創業以来、140年以上の歴史を紡いでこられたのは、当社の諸先輩が変化し続ける社会課題の解決に真摯に向き合い、挑戦と成長を積み重ねてきたからこそだと感じています。「挑戦と成長」、これは三菱重工グループに刻まれたDNAで、今後も変わらず大切にしていきたい企業文化でもあります。三菱重工グループにはまだ発揮しきれていない可能性がたくさんあると私は感じています。主体的に社会をつくりたい、社会を支えたいという志と責任を抱く方と共に、三菱重工グループの可能性を最大限に発揮し、世界を舞台に挑戦を重ねていきたいと思っています。三菱重工グループでは、当社グループのミッションの実現に向けて、グループ全体で「自律・協働・挑戦」の3つの価値観を共有しています。自らの意思で課題を見出し、主体的に行動し、多様な人々と協力しながら、ものづくりで社会課題の解決に挑戦していく。そんな気概を持つ若いパワーに満ちた皆さんと出会えることを、心待ちにしています。

■三菱重工グループの求める人材像

未来に挑戦する意欲的な人材を求めています。

三菱重工グループでは、当社グループのミッションの実現に向けて、グループ全体で「自律・協働・挑戦」の3つの価値観を共有しています。自らの意思で課題を見出し、主体的に行動し、多様な人々と協力しながら、ものづくりで社会課題の解決に挑戦していく。そんな気概を持つ若いパワーに満ちた皆さんと出会えることを、心待ちにしています。

三菱重工グループのミッション

「長い歴史の中で培われた技術に最先端の知見を取り入れ、
変化する社会課題の解決に挑み、人々の豊かな暮らしを実現する」

三菱重工が大切にする価値観

私たちは三菱重工グループのミッションの実現に向けて、
3つの価値観を共有しグループ員一人一人が行動します。



自律

- 一人一人が自分自身の役割を認識し、一人称で仕事に向き合い、自ら考え、プロとして責任を持ってやり遂げます。
- 主体的に課題を設定し、解決のために考え抜いて行動します。



協働

- 未来志向で協力し合い、長い歴史の中で培ってきた技術の更なる発展を通じ、社会に貢献します。
- 互いに尊重し合い、高め合いながら、チームで成果を出します。



挑戦

- 前例に捉われず、本質を追求し、最後まで諦めずに挑戦し続けます。
- 自ら周囲に働きかけ、チャンスを創り、成長し続けます。

■三菱重工グループの企業理念

社業を通じて社会の進歩に貢献する、という使命

創業から140年以上の長い歴史の中で、ずっと受け継がれ、変わらない精神。
それは、社会の進歩に貢献し、人々の暮らしに寄与したいという強い使命感です。
同じ思いを共有する仲間とともに、よりよい世界を目指して進み続けます。

三綱領

第4代社長である岩崎小彌太によって制定された三菱グループの経営理念です。
三菱の歴史の中で、連綿と引き継がれてきた精神を表したものです。

昭和初期制定

所期奉公（しょきほうこう）
期するところは社会への貢献
事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する。

処事光明（しょじこうめい）
フェアプレーに徹する
公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する。

立業貿易（りつぎょうぼうえき）
グローバルな視野に立つ
全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る。



社　是

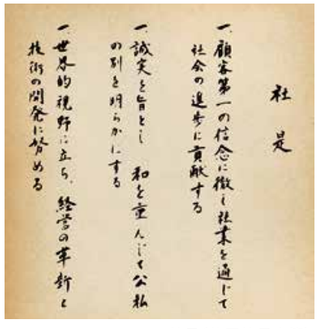
三綱領の精神を引き継ぎ、三菱創業100周年に制定されました。
会社の基本的態度、従業員の心構え、将来社会の志向すべき方向を表現しています。

昭和45年6月1日制定

■顧客第一の信念に徹し、
社業を通じて社会の進歩に貢献する。

■誠実を旨とし、和を重んじて
公私の別を明らかにする。

■世界的視野に立ち、
経営の革新と技術の開発に努める。



社是（牧田社長直筆）

社是制定趣旨

当社の発祥は遠く明治3年（1870年）に遡（さかのぼ）るが、当社の今日あるのは偏（ひと）えに創業者岩崎彌太郎を始め歴代の経営者、従業員のたゆまぬ努力の所産である。これら諸先人の残された数々の教訓は今なお我々の脳裡に刻まれているが、今これらの先訓を思い起こし、当社の将来への一層の飛躍に備え、伝統ある当社にふさわしい社是を制定せんとするものである。このたびの社是の文言は直接には第四代社長岩崎小彌太の三綱領―所期奉公、処事光明、立業貿易―　の発想に基づくものであるが、さらにこれを会社の基本的態度、従業員のあるべき心構えそしてまた将来会社の指向すべき方向をこの三つの観点から簡明に表現したものである。時あたかも三菱創業百年を迎え、激動する70年代の幕開けに際し、当社は時勢に応じ、絶えず新しい意欲を持って前進したいと思う。ここに新たな感覚を盛込んだ社是を制定する所以（ゆえん）である。

三菱重工グループの足跡をたどる

明治、大正、昭和、平成、そして令和に生きる

時代とともに歩み、日本と世界の最先端をリードし続けてきた挑戦の軌跡。
140年以上の歴史と実績に基づいて、さらに新時代へと飛翔します。

1884 – 1945年
造船業をベースに輸送インフラを製造

明治17年（1884年）、創業者である岩崎彌太郎が工部省の長崎造船局を借り受けてスタートした三菱重工のものづくり。日本初の鉄製汽船をはじめとする技術力を活かして重機、航空機、鉄道車両など事業の裾野を拡大。不安な世界情勢の下、当時最先端の技術は軍需でも活用される時代でした。

1946 – 1963年
戦後復興を支える民生品の世界へ

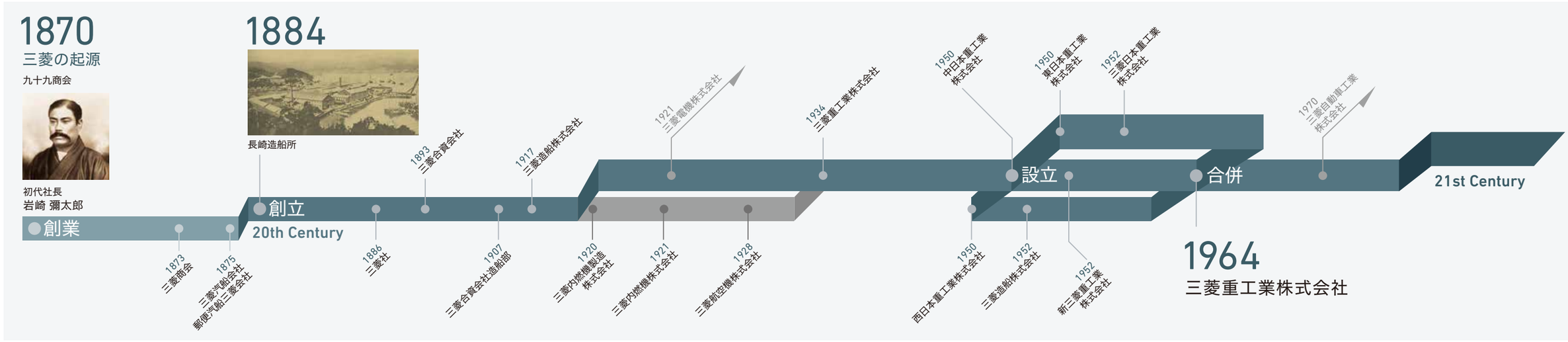
戦後はスクーターやエアコンなどさまざまな民生品の開発・製造に軸足を移し、日本の復興を支えました。1950年、GHQの財閥解体方針により3社に分割されると、製品規模もより拡大・多様化し、さらに技術競争力が強化。後の重厚長大産業のリーディングカンパニーに成長する礎となりました。

1964 – 1990年
3重工合併により、大規模開発事業へ

東京オリンピックが開催された1964年、分割された3社が再度合併し、現在の三菱重工グループとして再スタート。取り扱う製品も、石油掘削リグ、発電プラント、タンカー、橋梁、さらにH-Ⅰロケット打上げ成功など、事業フィールドは陸・海・空から、さらに宇宙へと広がっていきます。

1991年 –
持続可能な社会を支える、総合インフラ企業へ

環境保全の気運が高まり「エコロジー」という概念が一般化する中、ガスタービン、エコシップなど、常に高効率を求めてきた三菱重工グループの製品は地球規模でますます進化。グローバル化や情報化など変化する世界のニーズに対応しながら、総合インフラ企業として「持続可能な社会」を支えます。



日本初や世界初がたくさん！ 革新的な三菱重工グループの製品。



1887 日本初
日本初の鉄製汽船「夕顔丸」建造



1908 日本初
造船史に残る1万総トンを超えた日本初の大型客船「天洋丸」建造



1918
三菱A型乗用車製作



1968 国産初
国産初の50万kW超臨界圧ボイラ「中部電力知多3号機1,700t/h」完成



1970
PWR原子力発電プラント「関西電力美浜1号機」運転開始



1970 日本初
日本初、通勤路線用懸垂型モノレール「湘南モノレール」開通



1985 世界最大級
世界最大級コンバインド発電プラント「東北電力、東新潟3号機第二系列545,000kW」完成



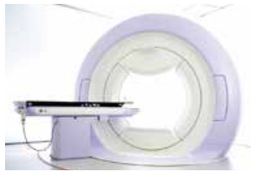
1986
H-Ⅰロケット初号機打上げ成功



1989 世界最深度
世界最深度潜水調査船「しんかい6500」引渡し



1999 日本最長
日本最長の斜張橋「多々羅大橋」完成



2004 世界初
世界初、高精度四次元放射線治療装置を開発



2009
宇宙ステーション補給機「こうのとり」HTV初号機打上げ成功



2011 世界最高効率
世界最高効率のJ形ガスタービンが実証運転で世界最高のタービン入口温度1,600℃を達成



2015
Mitsubishi SpaceJet（旧MRJ）飛行試験機初号機による初飛行を実施



2016 世界最大級
米国で世界最大級CO_2回収プラント（原油増進回収用）完成



2019 世界最大級
カタールで全自動無人運転都市鉄道「ドーハメトロ」が運行開始（単線地下鉄・都市鉄道）

エネルギーを生み出す製品と環境関連事業

まさに地球を動かす“心臓部”ともいえる、パワフルな部門です。
この瞬間も、世界中のどこかで、三菱重工グループが創り出すエネルギーがあらゆる産業を支え、
息づく地球に多様な動力を送り出し、人類の暮らしを豊かにするために貢献しています。
ダイナミックなプロジェクトに関わる充実感と、エキサイティングなものづくりが体感できます。



ガスタービン　三菱重工業（株）

多様なエネルギーインフラの提供で持続可能な社会に貢献

エナジードメインでは、高い発電効率を誇り、環境負荷の低減に寄与する「火力発電」、再生可能エネルギーを活用した「地熱発電」などの発電システムで、バランスのとれた質の高いエネルギーインフラを提供しています。さらに、大気汚染物質の排出を大幅に抑制する「総合排煙処理システム」、低燃費・低騒音の最新型航空機エンジン、石油化学分野でトップシェアを持つコンプレッサ、省エネ技術によって設計された舶用機械など多岐にわたる製品を扱っています。
原子力セグメントでは、「原子力発電」の設計・製作・建設・保守、「核融合炉」の開発などに携わっており、低炭素化社会の実現に貢献しています。
グローバル社会においてエネルギーの安定供給と脱炭素化が求められる中、地域や産業ごとに異なるニーズを反映しながら、持続可能な社会の実現を目指します。

総合エネルギーカンパニーとして世界トップレベルの技術で挑戦

三菱重工は、各種発電システム・環境技術分野で世界トップレベルのメーカーです。環境性と経済性、信頼性を兼ね備えたエネルギーソリューションを世界各国に提供しており、ガスタービンなどのエネルギー関連機器で世界トップクラスの市場シェアを獲得しています。
世界最高水準の発電効率64%を超える「ガスタービン複合サイクル発電」をはじめ、水素やアンモニアなど燃焼時にCO_2を排出しないカーボンフリー燃料の発電分野への導入にも取り組んでいます。
さらに、ハード技術のみならず、デジタル技術による運転・メンテナンスの効率化提案を展開しています。さまざまな革新的な技術によって発電時のCO_2排出量を削減し、カーボンニュートラル社会の実現に向けて挑戦を続けていきます。

三菱重工グループの仕事“こんなところ”で！



1分たりとも、電気のない世界は想像できない！
皆の幸せを支えるエネルギー事業の心意気

直接目に触れる機会は少ないけれど、私たちの製品や技術は多様な設備やエネルギーにカタチを変えて、世界中の人々の暮らしを支えています。
家庭の電気も、百万ドルの夜景も、未来のあなたが灯す明かりかもしれない。

●火力発電システム



三菱重工業（株）
ガスタービンコンバインドサイクル発電プラント（GTCC）／
GRDA社 グランドリバーエネルギーセンター

●コンプレッサ



三菱重工コンプレッサ（株）
工業プラント用大型コンプレッサ

●航空機エンジン



三菱重工航空エンジン（株）
民間旅客機用エンジン

●舶用機械



三菱重工マリンマシナリ（株）
MET過給機

●原子力



三菱重工業（株）
加圧水型原子力発電プラント／
関西電力（株）大飯発電所

「安心して暮らせる豊かな社会」を創造する事業

確かな技術力、信頼できる製品、そしてエンジニアリングの力で、
世界中のさまざまな社会的課題に取り組んでいます。大規模な化学プラント、最先端の交通システム、
循環型社会を実現する環境設備、環境に優しい船舶、産業を支え技術革新を生み出す製鉄機械は、
世界を舞台に、私たちの暮らしと社会を支え、確かな未来を築きます。



シンガポール チャンギ国際空港APM　三菱重工業(株)

エンジニアリングがつなぐ確かな未来

エンジニアリングとは、個々の技術やシステムを組み合わせて、より大きなシステムを構築し、新たな付加価値を付けて具現化する活動です。その活動には、EPC(設計・調達・建設)に加え、上流・下流(事業投資やO&M(運転保守管理))の事業も含まれており、高いマネジメント力で巨大なプロジェクトを遂行していくことが求められます。化学プラント事業では、衣類用の合成繊維プラント、穀物などの化学肥料を製造するプラント、住宅建材用の接着剤や塗料の原料となるメタノールを製造するプラントなどを建設し、世界の“衣・食・住”に貢献。交通システム事業では、車両・空気ブレーキのものづくりで培った高い技術力、さまざまなシステムを組み合わせるインテグレーション力に加え、遠隔状態監視サービス等を活かしたO&Mにより、人々の快適な移動をサポート。また、燃焼排ガスからCO_2を回収する技術*を用いたCO_2回収プラントでは、業界トップの納入実績を誇ります。さらに、多様なお客様のニーズに応えるために、CO_2回収装置の小型化・パッケージ化等にも取り組み中。このほか、都市ごみ焼却時に発生する蒸気を利用して発電するごみ焼却発電施設を国内外に数多く展開するなど、カーボンニュートラル社会および循環型社会の実現に貢献しています。

＊関西電力株式会社と共同開発した燃焼後排ガスからのCO_2回収プロセス

海事産業に貢献する船舶・海洋と鉄鋼産業を支える製鉄機械

船舶・海洋では、従来からのものづくりを主体とした造船に加え、造船を基盤とした関連技術、および三菱重工グループの総合技術による海事エンジニアリングをもって、国内外の海事産業の発展と脱炭素化に貢献。世界の海を舞台に、確かな技術力で未来を創造していきます。
製鉄機械では、製鉄・非鉄金属のすべての製造工程において最先端の生産ソリューションを提供し、世界各国で幅広い分野の産業・製品の進化をサポート。また、製造過程でCO_2排出量を減少させるグリーンスチール関連の技術開発にも積極的に取り組んでいます。

三菱重工グループの仕事 “こんなところ”で！



刻々と変わる時代の課題への挑戦と、
新しい感動を創るパイオニア精神

約140年前、日本で初めての鉄製汽船を創ったパイオニア精神は、快適な海の旅を支えるフェリーや、空港や街の交通システムへ、時代を越えて引き継がれてきました。この精神を受け継いで、次の新しい未来を拓くのはあなたです

●CO_2回収プラント



三菱重工業(株)
CO_2回収プラント(原油増進回収用)／アメリカ

●化学プラント



三菱重工業(株)
肥料プラント(メタノール併産アンモニア・尿素プラント)／ロシア・タタルスタン

●交通システム



三菱重工業(株)
ドバイメトロ

●環境設備



三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)
ごみ焼却発電施設

●商船



三菱造船(株)
フェリー らべんだあ

●製鉄機械



Primetals Technologies Limited
熱間圧延設備

新たな社会をカタチづくる多様な製品を扱う事業

社会インフラに関わるありとあらゆる分野で、
快適で便利な暮らしを支えるためのさまざまな技術・製品を扱います。
高度なテクノロジーや豊富な経験と実績を背景に、世界中の人と人、人と社会をつなぎながら、
豊かな暮らしと社会の発展を支え、次の時代の新たな社会基盤を築きます。



産業用エンジン　三菱重工エンジン＆ターボチャージャ（株）

人と環境にやさしい技術とサービス インダストリアル・ソリューション

サーマルシステムは、家庭からビル、工場、地域冷暖房まで、地球環境に配慮したサーマルソリューションで、エネルギー効率の高い快適な空間を創出。エンジンは、さまざまな機械の動力や、電力を創り出す発電システムの心臓部として暮らしを支えます。再生可能エネルギーを最大限活用する分散型発電システムや、水素エンジンの製品化に向けたプロセスも積極的に推進中。ターボチャージャは、世界的な環境規制強化への対応によって進む自動車のパワートレインの多様化に、世界トップクラスの技術力と開発力で応えます。いずれも環境保全の高まりから今後ますます注目される分野です。

身近な劇場、スタジアムの設備から 産業基盤を支える広範な機械システム

三菱重工機械システムが扱う製品とサービスは、実に多種多様です。
ITS（高度道路交通システム）は、ETCやERPシステム*など、多彩なソリューションを組み合わせ、交通渋滞などの課題に対してスムーズな道路環境や移動シーンを実現。機械装置では、センターレス観覧車やスタジアムの開閉屋根、劇場やスタジアムの可動設備などでアミューズメントシーンを演出したり、各種設備の安全性を検証する試験装置や油圧機械などを提供します。また、100m超えの高層煙突やガスホルダ、ビールタンクなどの構造物、人と車に優しいパーキングシステムや、「食の安全」を重視した飲料用充填機、リサイクル率が高く世界中で利用されている段ボールをつくる紙工機械など、いずれもお客様のニーズに合わせた最適な製品を提供し、産業全体をサポートしています。

＊Electronic Road Pricing システム：電子式道路課金システム

●サーマルシステム



三菱重工サーマルシステムズ（株）
店舗用パッケージエアコン

●ターボチャージャ



三菱重工エンジン＆ターボチャージャ（株）
ガソリン用可変容量（VG）ターボ

●機械システム



三菱重工機械システム（株）
航空機用サイレンサー（消音・防音設備）



三菱重工機械システム（株）
ERPシステム



三菱重工機械システム（株）
製函機「EVOL」

三菱重工グループの仕事 “こんなところ”で！



見えないところで、社会はもっと進化する
技術と発想で人々の安全・快適・感動を支える縁の下の力持ち

スタジアムの歓声も街の暮らしを守る静かな環境も。
わたしたちの技術は、物流施設や公共機関、産業設備など、さまざまな場所で活躍しています。
歓声が響くその瞬間も、誰かの特別な思い出も、あなたの仕事が支えているかもしれない。

陸・海・空・宇宙の安全・安心を守る事業

自分が携わったジェット旅客機が大空を飛ぶ時、ロケットの打上げが成功した時、
「言葉では言い表せないぐらい感動的だ！」と先輩社員は語ります。
国家プロジェクトレベルで社会に影響を与え、多くの人々の安全に貢献できるという
他では味わえない感動で身震いするような達成感、責任感のある仕事がここに！



ロケット第2段エンジン　三菱重工業（株）

安全・安心に暮らせる社会の実現・維持に貢献

防衛・宇宙事業は、最先端技術を活用し、社会の安全・安心に貢献する製品・サービスを提供しています。防衛事業では、国の要請に基づいて戦闘機やヘリコプタ、ミサイル、艦艇、戦車など、数多くの防衛装備品の開発・生産・運用支援に携わっています。また、当社がこれまで防衛事業で培ってきた先端技術を用いて、サイバーセキュリティ、無人機利用、衛星データ分析などのデュアルユース事業にも取り組んでいます。宇宙事業では、日本の宇宙開発の初期からロケット製造の中心的役割を担っており、当社はロケットの製造から打上げまでを一貫して担う世界でも数少ない企業です。現在、次世代の世界標準に対応するH3ロケットの開発を行っています。

グローバルな航空機事業を構築し世界の人々に快適な空の旅を

航空機事業では、ボーイング社、ボンバルディア社など世界有数の航空機メーカーに、民間航空機の主要構造である胴体や主翼、扉などを供給。完成航空機メーカーに対して直接部品を提供する民間機構造パートナー会社（Tier 1）として、世界屈指の規模や技術力を誇ります。部品製造から構造組立までの一貫製造を通して生産性の向上などを図るとともに、信頼性の高い技術によって、世界中の人々に快適な空の旅を届けていきます。
さらに、ボンバルディア社から承継したCRJ（カナダエア・リージョナル・ジェット）事業においては、世界トップクラスの航空機の保守・修理・オーバーホールに加え、エンジニアリングからカスタマーサポートに至る一連の機能を確保し、北米を中心にグローバルな航空機事業を構築しています。

三菱重工グループの仕事 “こんなところ”で！



人工衛星による宇宙利用で日常をもっと便利に

測位衛星、気象衛星、災害監視や地球環境を観測する衛星、ISS（国際宇宙ステーション）へ物資や機材を届ける宇宙ステーション補給機「こうのとり」（HTV）などを、宇宙の軌道へ正確に運んでいたのが三菱重工のロケットです。地球ではできないことを宇宙から可能にする、壮大なミッションにあなたも一緒に取り組んでみませんか？

●航空機



三菱重工業（株）
F-2戦闘機

●特殊車両



三菱重工業（株）
10式戦車

●艦艇



三菱重工業（株）
護衛艦 もがみ

●宇宙



三菱重工業（株）
H-ⅡAロケット

●民間航空機



MHI RJ Aviation ULC
CRJ



今日を支える、未来を創る

「確かな毎日を支える」
それは、日常を止めないために
与えられた使命を果たすということ

「確かな未来を創る」
それは、地球規模の難題にも
逃げずに果敢に向き合うこと

答えが目の前になかったとしても
最善のソリューションを問い続ける
それぞれの課題に寄り添い、あらゆる可能性を探り
進化を止めること無く、この国とこの星を支えていく

さまざまな専門家が集結する、会社の“頭脳”

ものづくりの現場に最新の技術・情報を提供し、三菱重工グループ製品を根幹から支える専門家たち。
まさに会社の頭脳集団です。地球規模の課題に果敢に挑戦し、事業や製品を守り新たな価値へと進化させていく。
過去、現在、そして未来のものづくり全体に関わるチャレンジングな部門で、多種多様な製品に携われるのが魅力！

技術開発をリードする技術戦略推進室

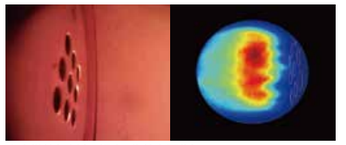
気候変動や労働人口減少などの社会問題の解決に向け、三菱重工グループが進めるべき技術開発戦略を立案し、リードするのが技術戦略推進室の役割です。グローバルな市場・技術・顧客・競合を分析し、社会が必要とする新たな製品・サービスに関する企画、マーケティング、コンセプトデザインを推進。新製品・サービスのアイデアを守るための知的財産活動を行い、持続的な成長と企業価値の向上を図っています。



最先端技術のその先へ。総合研究所

新製品/新技術の研究開発や既存製品の性能向上を、全事業を横断し推進しています。カーボンニュートラルの実現や、物流高度化・電化など新しいジャンルにも果敢に挑戦。世界中の大学、企業、世界トップレベルの研究拠点との連携や、当社YHH*を中心としたベンチャー企業との共創を進めることで、常に最先端の技術・知識を獲得しています。また、研究段階から知財戦略を推進すると共に、高度な解析技術と大規模試験設備を活用し多様な研究開発に取り組んでいます。

* Yokohama Hardtech Hub：社会課題を解決する技術を核としたイノベーション拠点



水素燃焼解析（可視光・紫外光画像）



発電用水素ガスタービン

DXでものづくりの現場に革命を！デジタルイノベーション本部

三菱重工グループのものづくりの全工程に最新のデジタル技術を導入し、現場を変革することを使命としています。製品の現場を熟知し、絶え間なく進化するデジタル技術に敏感であり続ける。そして、その技術をどのように使い、何に活かすかを徹底的に考え抜き、現場が変わっていく姿を見届けることがデジタルイノベーション本部の仕事であり、やりがいです。



全社の事業基盤を強化するバリューチェーン本部

三菱重工グループ各事業におけるバリューチェーンプロセス（設計・調達・製造・品質保証等）の強化や、事業活動に伴い発生するCO_2の削減・ゼロ化に向けた取り組みを行っています。また、各種教育を展開する研修センター、大型鋳物部品を製造する鋳造センター、電気・ガス・水を工場に供給するインフラ設備管理部を通じて、各事業に必要不可欠なモノやサービスを提供しています。



太陽光発電設備（三原製作所）





あなたの仕事が、グループの製品を飛躍・進化させる！

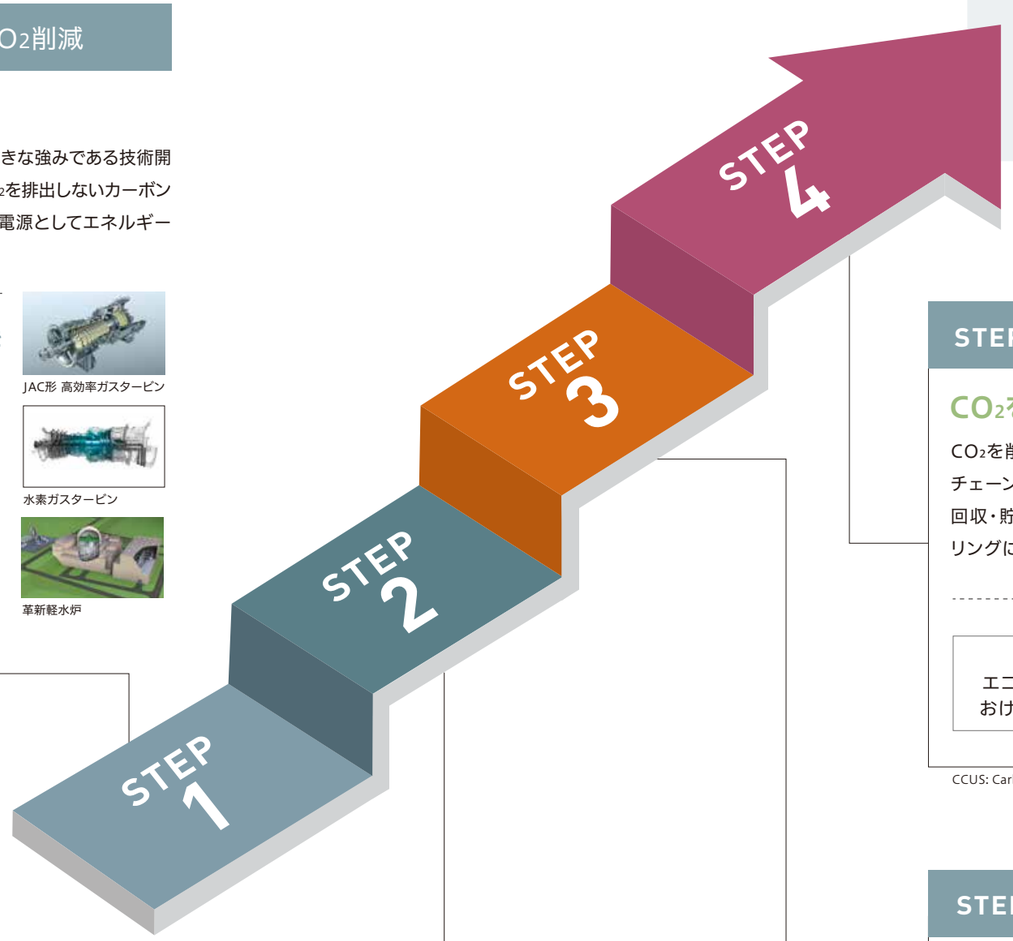
500種類もある三菱重工グループ製品の全てがターゲット。
三菱重工グループが有する多くの技術・知見・データ、そして人を有機的に「つなぐ」ことで画期的なイノベーションを創出していく。最先端の技術・情報に触れながら、私たちと一緒に新たな可能性にチャレンジしよう！

革新的な未来を創造する三菱重工グループの取り組み

変化を続ける社会の中で地球規模の課題に挑む

三菱重工グループは、長年培ったエナジー技術やものづくりの技術を進化させるとともに、
カーボンニュートラル社会の実現に向け、未来の新たな価値の創造に挑戦していきます。

私たちはカーボンニュートラルを目指す世界の潮流をリードしています。



STEP1：火力発電の脱炭素化・原子力によるCO2削減

最先端のエナジー技術で脱炭素に貢献

カーボンニュートラルの鍵を握る発電部門において、当社グループの大きな強みである技術開発力を活かし、火力発電の高効率化や水素・アンモニアなど燃焼時にCO2を排出しないカーボンフリーな燃料の導入を推進。安全を確保した原子力は、ベースロード電源としてエネルギーセキュリティにも貢献します。

火力発電の高効率化・高度化	◆高効率化と水素／アンモニア導入でCO2を大幅削減 ◆高い調整力を持つ火力発電所が再生可能エネルギーの導入拡大をサポート
原子力によるCO2削減	◆原子力発電プラントの再稼働・新設により発電分野のCO2排出を大幅削減 ◆高温ガス炉による大量かつ安定的なCO2フリー水素製造（製鉄業界へ提供）

JAC形 高効率ガスタービン

水素ガスタービン

革新軽水炉

STEP2：産業用エナジーの効率的な活用

AI技術で最適なソリューションを

発電技術のみならず、市場全体のエナジー消費量を最小化するマネジメントも不可欠です。当社グループが関わる製鉄や化学工場などの基幹産業に対しては、独自AI技術を適用し、熱・電力の需要予測や最適運営のソリューションを提案。お客様の収益改善と市場の脱炭素化を支援します。

TOMONI. Powered by ESynX

◆AI技術で現場データ活用し産業顧客の脱炭素化・最適化を支援

・既存アセットの生産効率改善と燃料転換支援
・電力市場取引活用による再エネ利用拡大、余剰電力の有効活用



ネットゼロカーボンの達成

三菱重工グループは、日本政府や主要国が掲げた2050年の目標をさらに早めた2040年に、当社グループの事業全体でCO2排出ゼロを目指しています。

CO2排出量の削減目標

目標年	Scope1,2 三菱重工グループのCO2排出削減	Scope3+CCUS 削減貢献 バリューチェーン全体を通じた社会への貢献
2030年	▲50%（2014年比）	▲50%（2019年比）
2040年	Net Zero	Net Zero

※Scope1,2：算出基準は、GHGプロトコルに準じる。
Scope3　：算出基準は、GHGプロトコルに準じる。但しこれに独自司指標のCCUSによる削減貢献分を加味。

STEP4：CO2エコシステムの実現

CO2を回収・活用するという発想

CO2を削減するだけでなく、回収・貯留し、さらに利用するCCUSバリューチェーンの構築はカーボンニュートラルの要です。当社グループでは、CO2回収・貯留・輸送・カーボンリサイクルに関する技術開発およびパートナリングに取り組むことで、CO2エコシステム実現を目指しています。


CO2回収プラント


LCO2輸送船


コンプレッサで圧縮


CO2液化

CO2エコシステムにおける事業拡大	◆更なる技術開発で、CO2回収分野の当社優位性を拡大 ◆回収後のCO2転換利用のバリューチェーンに参入

CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage

STEP3：水素エコシステムの実現

一次エナジー　水素製造　輸送・貯蔵　利用

世界のパートナーと水素社会を築く

未来のエネルギーの核となるカーボンフリー水素について、一次エナジーの供給から製造～輸送・貯蔵～利用に至るまで、バリューチェーンを構築します。自社開発に加えて、各国でのプロジェクトに参画するなど、水素・アンモニアバリューチェーン構築のためのパートナリングも進めることで、水素社会の実現を目指します。

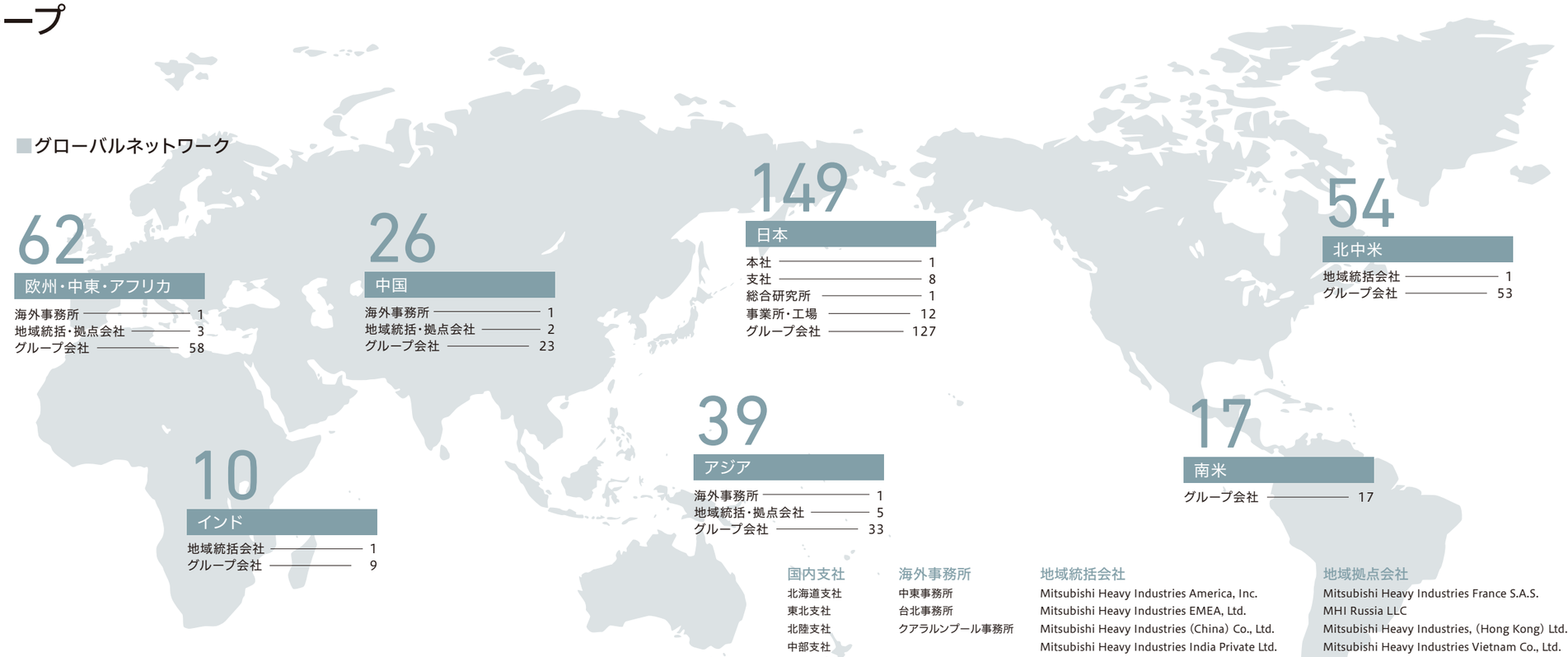
水素エコシステムの実現	◆水素製造から利用までの技術・製品・サービス提供によるインフラ確立とコストダウンへの貢献 ◆独自技術に加え、積極的な他社とのパートナリングによるバリューチェーン構築

数字からみる三菱重工グループ

地球をステージに働く！
グローバルに活躍できる

三菱重工グループの海外の拠点は約190社。国境を越えて全世界に仕事の場が広がっていますので、語学力や異文化コミュニケーション能力を活かしてグローバルに活躍したいと思われている方にはピッタリ。海外案件も多いので、若手を積極的に海外プロジェクトに登用する企業の精神が息づいています。

グローバルネットワーク



62 欧州・中東・アフリカ
- 海外事務所 1
- 地域統括・拠点会社 3
- グループ会社 58

26 中国
- 海外事務所 1
- 地域統括・拠点会社 2
- グループ会社 23

149 日本
- 本社 1
- 支社 8
- 総合研究所 1
- 事業所・工場 12
- グループ会社 127

54 北中米
- 地域統括会社 1
- グループ会社 53

10 インド
- 地域統括会社 1
- グループ会社 9

39 アジア
- 海外事務所 1
- 地域統括・拠点会社 5
- グループ会社 33

17 南米
- グループ会社 17

国内支社
北海道支社
東北支社
北陸支社
中部支社
関西支社
中国支社
四国支社
九州支社

海外事務所
中東事務所
台北事務所
クアラルンプール事務所

地域統括会社
Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.
Mitsubishi Heavy Industries EMEA, Ltd.
Mitsubishi Heavy Industries (China) Co., Ltd.
Mitsubishi Heavy Industries India Private Ltd.
Mitsubishi Heavy Industries Asia Pacific Pte. Ltd.
PT Mitsubishi Heavy Industries Indonesia
Mitsubishi Heavy Industries Australia, Pty. Ltd.

地域拠点会社
Mitsubishi Heavy Industries France S.A.S.
MHI Russia LLC
Mitsubishi Heavy Industries, (Hong Kong) Ltd.
Mitsubishi Heavy Industries Vietnam Co., Ltd.
Mitsubishi Heavy Industries (Thailand) Ltd.

グループ会社数は連結会社、非連結会社、関連会社の合計です（2026年5月1日現在）
国内支社、海外事務所、国内事業所および工場は、三菱重工業（株）の拠点を掲載しています

海外グループ会社数（連結）

約190社

国内事業所・工場



国内グループ会社数（連結）

約60社

グループ企業の連携で
さらに競争力アップ！

3ドメイン4セグメントの事業体制により、製品のインテグレーションを図り、新しい領域の開拓や既存事業の組み合わせを通じた事業開発にも取り組み、成長戦略の推進を一層加速。社会的価値や外部環境の変化に対応しつつ、グループのシナジー効果を発揮して、収益力およびグローバル市場での競争力をさらに強化しています。

全グループ員とともに事業の成長・拡大を

売上収益は成長性・収益性の高い事業へ経営資源を投入し、事業の成長・拡大を実現。
ものづくりの情熱を共有する約8万もの仲間たちが、世界中で活躍しています。

売上収益（連結／IFRS）

約5兆円

（2025年4月1日～2026年3月31日）

海外売上比率

50%超

国内／海外グループ会社 社員数（連結）

約80,000人

国内・海外グループ会社数（連結）および社員数（連結）は、2026年3月31日現在のものです。

三菱重工グループのプロジェクトの流れを知る

技術系と事務系がタッグを組んでプロジェクトに挑む





プラントプロジェクトの一例です

プロジェクトの流れ

01 案件検討
営業担当がお客様のニーズを収集・分析

02 見積計画・提出
営業や資材調達、経理・財務、法務、設計が連携し見積と条件を確定

03 契約交渉
基本設計案、技術資料、見積を提出し、契約交渉を実施

04 受注（契約）
お客様との間で契約書を締結し、いよいよスタート！

05 詳細設計
設計担当が営業や資材調達と連携し、必要な材料・形状を決定

06 資材調達
資材調達担当が設計担当の依頼をもとに資材を製造部門に納入

07 製造
重要機器を事業所で生産 高い技術力と品質の高さが発揮されるフェーズ

08 輸送
各事業所で製造した機器や世界中から調達した資材を建設現地に輸送

09 現地工事
輸送された機器や装置を据え付け、建設開始

10 試運転
多岐にわたる試験を実施 引き渡し後の稼働に備え現地スタッフの教育も

11 引き渡し
製品が無事稼働すればプロジェクトのゴール！喜びの瞬間です

12 アフターサービス
引き渡し後も継続して製品に関わり顧客満足度をアップ

技術系社員

- 研究開発
- 設計
- 生産技術・管理
- 現地建設
- 品質保証
- システム開発
- 知的財産
- プロジェクトマネジメント

事務系社員

- 営業
- 資材調達
- 資材調達
- 経理・財務
- 法務
- HR（人事/労政）、総務

■技術系社員の職種と役割解説

●研究開発
専門的な知識と三菱重工グループの技術力を活かして、新技術・新機種開発の立案から具体的な推進、フォローまで行います。

●設計
概念的な設計を行う基本設計、実際のものづくりに直結する詳細設計、全体を把握・コントロールするプロジェクト設計を行います。

●生産技術・管理
生産戦略の立案、機械・機器の導入、工程管理に加え、製造工程に必要な加工技術や生産システムの研究・開発などを行います。

●現地建設
海外を含む現地で、各機器や設備を建設する場面で、工事計画の立案から行程管理・安全管理まで、技術向上に関する仕事を行います。

●品質保証
設計、製造段階での品質管理をチェックし、製品クレームをなくしたり、さらなる品質向上に向けた活動や検査業務なども行います。

●システム開発
最先端ＩＣＴ技術を駆使し、製品・製造の知能化・高機能化を実現するとともに、情報セキュリティの強化、ITインフラ整備などを行います。

●知的財産
三菱重工グループの製品について特許・意匠・商標の権利取得や官辺手続き、他社との交渉・訴訟などの渉外業務を担当します。

●プロジェクトマネジメント
受注から引渡しまでの全工程を統括し、品質・コスト・納期の達成に向けて社内外の関係者と連携しながらプロジェクトを推進します。

□事務系社員の職種と役割解説

●営業
提案・受注活動からアフターサービスまで、三菱重工グループの技術をビジネスに結び付け、プロジェクト全体のとりまとめを行います。

●資材調達
プロジェクトに必要で最適な材料・部品を、予算内の価格で、必要なタイミングに合わせて調達します。新たな調達先の開拓も担当します。

●経理・財務
プロジェクトのコスト管理および損益予想など、会計や税務などの専門知識をもとにプロジェクトを支えます。

●法務
お客様との契約交渉・リスク管理・紛争解決訴訟の解決など、法的側面からプロジェクトの成功をサポートします。

●HR（人事/労政）
人事制度の策定・運営や社員の採用・教育、労働組合との協議など、「人」に関する業務を行い、安心して働ける環境づくりを支援します。

●総務
会社法に基づくガバナンスや、渉外の機能を担当します。

三菱重工グループの人材開発制度

充実した社員教育プログラム

三菱重工グループは、社員一人ひとりが、能力を最大限に発揮し、仕事を通じて社会に貢献できるような人材に成長していけるよう、充実した社員教育プログラムを用意しています。人材育成の中心となるOJT（職場内教育）を軸に、「各種研修によるOff-JT」と「自己啓発」を効果的に行い、個々の適性・キャリアに合わせて、長期的な育成をサポートしています。



三菱重工グループの教育体系

階層別研修
キャリアや役職に応じて必要な知識を身につける研修

- ●新任部長研修
- ●新任課長研修
- ●新任主任研修
- ●キャリアデザイン研修
- ●新入社員教育

グローバル研修
グローバルに活躍できる人材となるための研修

- ●各種語学研修
- ●異文化間コミュニケーション
- ●グローバルマネジメント研修
- ●若手海外派遣
- ●海外留学

スキル研修
仕事をする上で必要なスキルを身に付ける研修

- ●技術教育（機械系・電気系・IT系 等）
- ●職種別教育（営業・経理・調達 等）
- ●ビジネススキル教育（問題解決研修、PCスキル研修）

［ 新入社員教育の概要 ］

「自律的に成長できる人材」となるための基礎固めの期間として、入社後２年間は、育成担当者（指導員）を中心に計画的なOJT・Off-JTを行います。

新入社員教育期間（入社後２年間）

入社

↓

新入社員導入教育
- ●三菱重工グループ社員になることへの意識づけ
- ●ビジネスマナー等、社会人として基礎的なビジネススキルを習得

↓

職場配属

↓

職場によるOJT
- 育成担当者制度
- 各種Off-JT（英語研修、フォローアップ研修 等）
- 新入社員論文／業務レポート

［ 研 修 施 設 ］

名古屋にある研修センターにて、社内外の講師やオリジナルテキストによる実践的な研修を約200種類、年間500回以上実施しています。

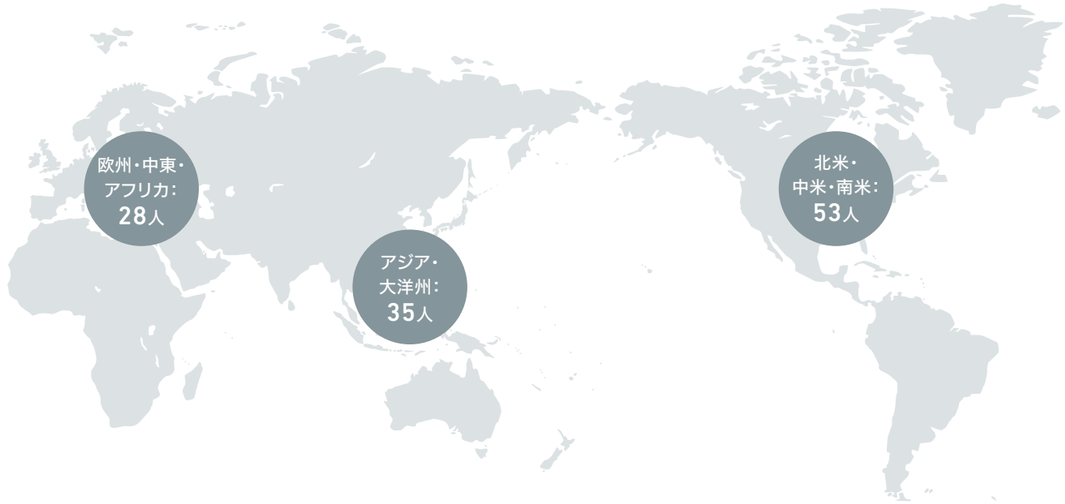




社員の新たな挑戦支援

自組織から一歩外に出ることで、自分や自社の強みを再認識し、他者との協働を通じて広い視野を身につけること、現状を突破する行動力や自分で考える力を育てることを目的に、教育体系に「越境学習」を設けています。
具体的には、社内の他部門に一定期間異動する「越境チャレンジ」、社外のベンチャー企業等へ有期で出向し、高い視座や新たな視点を獲得する「ベンチャー出向プログラム」など、さまざまな機会を提供することを通じて、社員の新たな挑戦を支援しています。
また、グローバル対応基礎力とグローバル人材としての意識向上を目的とした、海外グループ会社でのOJTプログラム「MHI Global Training」に社員を派遣するなど、グローバル人材の育成にも力を入れています。

MHI Global Training 派遣実績（2018年～2025年）



自己啓発支援

オンライン動画学習や英語学習といった自己啓発プログラムへの費用補助制度などを整備し、社員の自律的な学びを奨励しています。

オンライン動画学習プラットフォーム
ビジネスに有用なコンテンツを定額・学び放題で学習できるオンライン学習プラットフォームです

語学学習プログラム
ビジネスで実践可能な英語力を継続的に強化するEラーニング・外国人講師とオンライン英会話レッスンが受けられるプログラムや、英会話スクールの費用補助プログラムを用意しています

通信教育
語学やビジネススキル、資格取得、専門技術等、さまざまなジャンルでのべ250種類以上のコースを用意しています

その他
通勤時間などのスキマ時間を活用して教養やビジネススキルを身につけられる要約読書サービスです

ワークスタイル・福利厚生

安心の福利厚生でワーク・ライフバランスを

三菱重工グループでは、社員一人ひとりが安心して働き、豊かな人生を楽しめるようにサポートしています。そのために、結婚や出産などのライフイベントがあってもキャリアを中断させない環境を手厚く整備。さらに、寮・社宅といった福利厚生施設、財産形成支援制度、クラブ活動なども充実しています。



三菱重工は「えるぼし」「くるみん」の各認定を取得しています。

仕事と家庭の両立を支援する各種制度

社員それぞれのライフステージで、仕事と出産・育児・介護などとの二者択一を迫られることなく働き続け、キャリア形成できる環境を整えています。出産・育児休業はもちろん、在宅勤務制度など働き方の面でも手厚い制度でサポートします。



〈ベビーシッター割引券の導入〉

仕事と育児の両立支援の一環として、こども家庭庁の「企業主導型ベビーシッター利用者支援事業（ベビーシッター割引券）」を導入しています。

〈育児支援セミナーの実施〉

育児休業中の社員への情報提供および懇談の場を提供することで、復職への不安を解消し、職場復帰の準備に役立てることを目的として毎年実施してきました。近年では、育児休業中の社員のみならず、育児勤務中の社員や育児期の社員がいる上司、男女問わず関心のある社員も受講対象として、多様で柔軟な働き方ができる風土醸成に取り組んでいます。セミナーでは、当社の両立支援制度の説明を行い、これらの制度を活用しながら仕事と育児を両立させている社員の働き方を紹介するとともに、参加者同士の自由懇談の時間を設け、情報交換やリフレッシュの機会になっています。

育児後の復職率は99.2%、女性も活躍中！

男性の育児休業・勤務の利用が、ここ数年で大幅に増加。女性も子育て後に復帰してキャリアを築いている先輩がたくさん。
男女問わず、さまざまな制度を積極的に活用して、家庭と仕事を両立させています。

育児に関する制度の取得データ

		2023年		2024年		2025年	
育児休業取得率※	男性	85.8%	女性 98.9%	男性 90.2%	女性 98.6%	男性 92.2%	女性 98.6%
育児勤務利用者数	男性	348名	女性 559名	男性 682名	女性 530名	男性 719名	女性 483名

※男性：育児休業または配偶者が出産した際に使用できる育児目的の休暇（配偶者出産休暇）を取得開始した社員／子どもが産まれた社員
女性：育児休業を取得開始した社員／産前産後休暇が終了し、育児休業取得可能となった社員

多様化するライフスタイルへの支援に向けて

多様化するライフスタイルへ対応するため、住宅支援制度のほか、社員1人1人が安心して働ける環境整備を進めています。
今後も、社員一人ひとりがもてる力を最大限発揮して自律的に働けるよう、時代に即した制度の拡充に取り組んでいきます。

住宅支援制度

（2026年4月時点の内容。適用には一定の条件あり）

家賃補助 《 選択可能 》 寮・社宅

首都圏
65,000（独身・単身）円支給
90,000（家族）円支給

首都以外
45,000（独身・単身）円支給
60,000（家族）円支給

一般的な賃貸物件の
20-30%
の費用で入居可

多様化するライフスタイルに即した福利厚生制度

制度・取り組み名称	主な特徴・内容
家賃補助制度	長期的に社員が安心して業務に邁進できる環境整備のため、2025年4月から家賃補助を増額
通勤交通費補助	新幹線・有料道路等で通勤する場合の支給要件を拡大
確定拠出年金制度	老後に向けた資産形成の支援を拡大
ファミリーサポート手当	ワークライフバランス支援を拡大
従業員持株制度	資産形成の一助に加え、従業員が自社株を保有することで会社経営に対する興味・関心を高め、働く意欲の向上に寄与

未来をつくりたい人が
集まる・育つ・活躍する組織を目指して

三菱重工グループは、現在の社会を支えるさまざまな事業や、次の社会をつくるための挑戦を多方面で行っている企業です。だからこそ、主体的に社会をつくりたい、社会を支えたいという志と責任を抱く人々に選ばれる企業でありたいと考えています。
当社グループは、そのような想いを持って入社した社員の挑戦と成長を後押しすることを目指しています。

採用強化の取組み

三菱重工グループの採用活動では、当社グループの大きな醍醐味である「世界を変えるものづくり」や社会貢献性の高さを実感いただくために、さまざまなプログラムを提供しています。
技術系職種希望学生には職場受入型のINTERNSHIP（5日～10日）を、事務系職種希望学生向けにはWORKSHOP（2日間）を実施しています。技術系INTERNSHIPは例年約1,000種類のテーマを用意しており、さまざまなバックグラウンドをもつ人材に参加いただいています。事務系WORKSHOPは当社技術を活用した社会課題の解決に関するワークや、事務系職種の体感ワークなどに取り組んでいただき、三菱重工グループで働く醍醐味を体感いただいています。また、人材の多様化を目的に技術系職種希望女性の採用拡大にも注力しており、具体的には当社女性エンジニアとの座談会や工場見学を実施するなど、三菱重工グループで活躍する魅力を訴求しています。

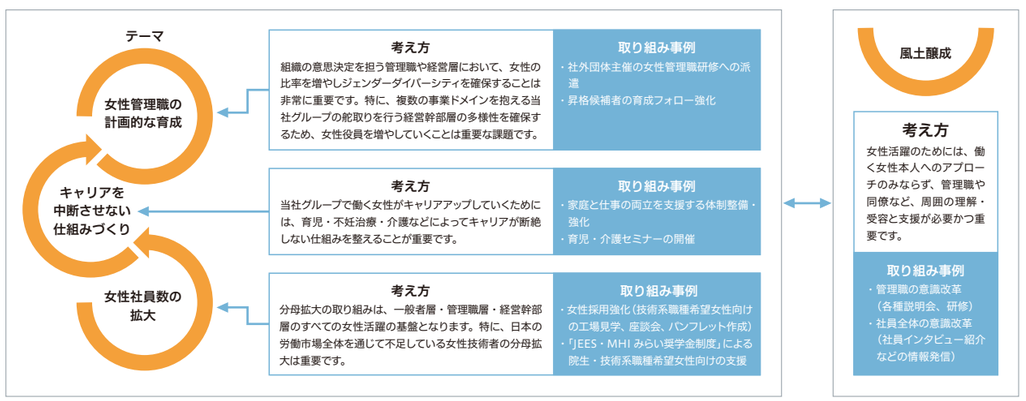




女性エンジニアとの座談会・工場見学

女性活躍推進に関する取り組み

三菱重工グループが持続的に発展していくために、ジェンダーダイバーシティを実現し、一般者層のみならず管理職層や経営幹部層でも活躍する女性を増やしていくことが重要です。すべての従業員がジェンダーに関係なく活き活きと活躍できる会社を目指して、当社グループは、「女性社員数の拡大」「キャリアを中断させない仕組みづくり」「女性管理職の計画的な育成」という従業員体験のサイクルに即した3要素と、それらを支える土台となる「風土醸成」を加えた計4つの要素からなる女性活躍の取り組みを推進しています。



キャリア形成やフィードバックに関する取り組み

環境変化のスピードが速く先行きが見通しにくい時代の中で、三菱重工グループが持続的に成長していくためには、社員一人ひとりがその変化を捉え、より一層自律的かつ継続的に成長していくことが必要です。三菱重工グループでは、キャリア形成や経験拡大のための制度の拡充を推進しています。

制度・取り組み名称	背景やねらい	概要や実績
会話の機会の創出		
キャリアデザイン面談制度	社員一人ひとりが事業環境の変化を積極的に捉え、よりいっそう自律的かつ継続的に行動・成長していく（“一人称で働く”）こと、社員が主体的にキャリアを形成していくことは非常に重要です。	事務技術系社員および管理職に対しキャリアデザイン面談制度を導入しています。上司・部下間の対話を通じて、個々人の多様な価値観やライフスタイルを踏まえた希望と、求められる役割に応じたキャリア目標を十分にすり合わせるとともに、具体的なアクションプランを検討・実行しています。 技能職社員に対しては、中長期的に目指す姿についての対話を通じて自律的な行動・成長を促進し、キャリア形成の機会を創出しています。
四半期ごとのパフォーマンス面談	当社および社員を取り巻く環境は猛烈なスピードで変化しており、日々変化に合わせたタイムリーな対応やフォローがよりいっそう必要となってきています。そのためには業務目標の進捗確認や目標達成に向けて上司と部下間のコミュニケーションの頻度向上を図る仕組みづくりが重要となります。	事務技術系社員を対象に、四半期ごとの対話制度（パフォーマンス面談制度）を導入しています。上司と部下間の対話機会創出と対話頻度向上による関係性強化、そして、適切な目標設定とフィードバックによる個人の成長や組織の成果創出につなげています。
経験拡大のための制度整備		
グループ内人材公募制度	社員の自律的なキャリア形成には、自身の成長の場を主体的に選択できる仕組みが必要です。また、さまざまな知識・経験やバックグラウンドをもった当社グループの優秀な人材が既存の枠を超えて活発に交流し、イノベーションにつなげることを可能とする仕組みづくりも重要です。	社員自らの意思による異動を可能とする制度で、公募部門の選考に合格した場合に異動することができます。これまで約800人（2024年3月時点）のグループ員が異動して新たなチャレンジを始めています。
副業・兼業制度	副業や兼業によって社内では得られない経験や視点を得ることは、社員が自律的にキャリア形成をしていく上で非常にプラスに働きます。また、イノベーション創出のために必要な個の多様性を深めていくためには、副業や兼業によって本業とは異なる経験や視点を得ることも非常に効果的です。	安全配慮義務の観点から、本業と合わせての労働時間の上限を設定し、個人で業務量の調整を行いやすい個人事業主型を対象範囲としています。

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進

三菱重工グループが持続的に発展し、また社会との共通価値の創造を最大化させるために、事業活動の根幹となる人材の多様性（性別、年齢、国籍、障がいの有無など）を財産とし、さまざまなバックグラウンドをもった社員一人ひとりが、互いの違いを認め合いながら、一つの共通の企業文化の下で業務に取り組める環境づくりを進めるとともに、社会的な格差がある場合は、バリアを取り除き、公平さや平等を実現していきます。
2024年10月に制定した「三菱重工グループダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DE&I）ポリシー」の中では、DE&Iの取り組みを三菱重工のHR担当役員が中心となり、三菱重工グループ各社と連携して推進していくことを定め、社内外に発信しました。

■性の多様性における取組み

以前から、同性パートナーを有する方でも法律婚と同様の福利厚生を受けられるように配慮してきましたが、2023年12月には専用の相談窓口を開設し、2024年5月には制度を利用しやすくするためのガイドラインを発行しました。今後も、性別に関わらず全従業員がよりいっそう活躍できる環境づくりに取り組んでいきます。

■障がい者社員における取組み

能力と適性に応じて活躍できる場の提供と社会的自立の促進を目指し、相談窓口を設置するなど、職場環境および施設・設備面において配慮を進めることで就労支援を推進しています。2018年12月には新たな職域で障がい者が活躍できる場を創設するとともに、就労支援センターと連携して採用するなどの取り組みを行い、2024年には新たに2つの地域において、事務作業を中心に行う職場の運営を開始しました。こうした取り組みにより、より多くの障がい者が当社に興味をもち、安心してご応募いただけるように努めています。また、障がい特性に応じて柔軟な勤務が可能となる制度を整えています。



社会人ラグビーチーム「三菱重工相模原ダイナボアーズ」のオリジナルグッズの一部は、障がいを抱える当社グループ社員が業務として制作している。